

はじめに

どーも、福沢です。

今回、僕の読者さんから日々添削や質問を数多くいただく中で
そもそも**正しいラインを引けていない人**がかなり多く見受けられたので

これじゃダメだなと思い
今回ラインの引き方や、引く場所を徹底的に基礎から固めていって
「この相場の場合はここに引くのが正解」、「こうときはここに引いたらダメ」という風に
自分でも**完璧に正しいラインを引けるようになってもらう**ために
その「指南書」としてこれを作りました。

正しいラインを引けると必然的にトレードにも安定性が生まれ
リスクリワード比や勝率も上がり結果的に「堅実な勝ち」に繋がることは言うまでもありません。

なので、**勝てるための最優先事項は、まずはこの「正しいライン」を引けるようになること**
になります

正しいラインが引けないと話にならないし
正しいラインを引けるという、その上で僕のエントリーマニュアルのやり方や考え方が
成り立っているの、これを読んでるあなたにはまず、「正しいライン」を
リアルタイムの相場でしっかり引けるようになってもらいます。

とはいえ、「**相場は生き物**」とも言われているくらい
同じ相場は2度と来ません。

ブログやメール講座でも言っていることなのですが
2度と同じ来ないものに対して、「正しいラインの引く場所を教えて!」と言われても
「このラインに対してこう動きをする」という絶対的な答えはありません。

先ほども言ったように、相場は生き物で僕ら人間や動物と同じように
常に意思を持って動いていると思ってください。

その中で、「正しいラインはここに引く!」と言っても
相場によっては機能する場合もあれば、機能しない場合もあります

当然です、生き物なのですから。

じゃあどうすればいいか？

大事なのは「**ラインをその時々相場に合わせて引く**」ということなんです

相場は生き物なんだから、その生き物の動きに合わせて
ラインを引いていくというイメージをしてください。

つまり、相場のパターンや形、流れに合わせてラインを引き
そこから流れが変わるポイントや、エントリーができるポイントを導き出していくんですね。

なので、この本書では

「相場がこういうパターンのときは〇〇にラインを引くと意識されやすい」
「こういう流れのときは〇〇にラインを引かなければならない」
「こういう形のときは〇〇のラインに気をつけて〇〇を抜けると大きく狙える」

といった、ケースバイケースをできる限り多く集めて
一つずつ、細く具体的にそのラインに対しての説明をしているので

**ある程度、どの相場でもどこにラインを引くのが正しくて
どういう風に狙っていくのか？ということが分かるようになるはずです。**

なんとも言いますが

FXで勝ち続けるためには、本当に「正しいラインを引けること」が必須になってくるので
その正しいラインを習得するために、**この本書で徹底的に学んでください。**

1、基本的な正しいラインの引き方&ラインを引くときに絶対に意識しなければならない重要なポイント

1-1、正しいラインは〇〇を意識して引く

では、まずその正しいラインとはどういうラインのことを言うのか？というところからですが

正しいラインというのは、そのラインでしっかりと機能してそこでレジスタンスやサポートといったレートの切り返しが起こるポイントに引けているラインというのが、正しいラインになります。

ラインの引き方自体は

「上下（目線）を分けるライン」も「エントリーに使うレジサポライン」も何も変わりません。

引き方自体は、例外なく全てのラインにおいて統一していて共通ですが

ただ、**引く場所が相場によって変わってきます**

（ここの説明は、章で話してます）

なので、この章ではまず一番基本的である

ラインの正しい引き方を教えていきます

基本的にはなりますが、基本がもの凄く大事ということは言わなくても分かると思います 笑
本当に基本ありきですからね^^;

まず、正しいラインを引くときに絶対に押さえておかなければならない重要なポイントは3つあります。

1、「必ず高値、安値を意識して引く」

2、「支持点の数」

3、「ラインはある程度アバウトに考える」

です。

1の「**必ず高値、安値を意識して引く**」から順に説明していきますね。

この1、についてはブログやメール講座の方で何回か話したこともあるので知っているという方もいるかもしれませんが
今回はさらに掘り下げて、具体的に説明していきます。

さて高値、安値を意識して引くということなのですが
これはその言葉の通りでラインを引くときは必ず高値、安値を意識して引く。
ということです

相場って常に高値、安値を作り
その高値、安値で止められたり、はたまたそれを更新したりして
その連続で動いているので、パッと相場を見るだけでも
かなり多くの高値、安値がありますが、だからと言って
全ての高値、安値にラインを引くというのは完全に間違ってますよね。
(さすがにそんな人はいないと思いますが 笑)

よって、ここで大事なのは**どの高値、安値に注目してラインを引くか？**なんです

その相場で重要になる高値、安値に注目して
ラインを引かなければなりません。

この**重要になる高値、安値**も
当然ですが、その時々相場によって変わってきます

↓の画像を見てみてください



適当に持ってきたドル円のチャートですが

例えば、この相場で注目しなければいけない高値、安値はどこになると思いますか？

注目しなければいけない重要な高値、安値の探し方としては

「波の動きをイメージすること」です

どうということ？？という声が聞こえてきそうですが

↓の画像を見てください

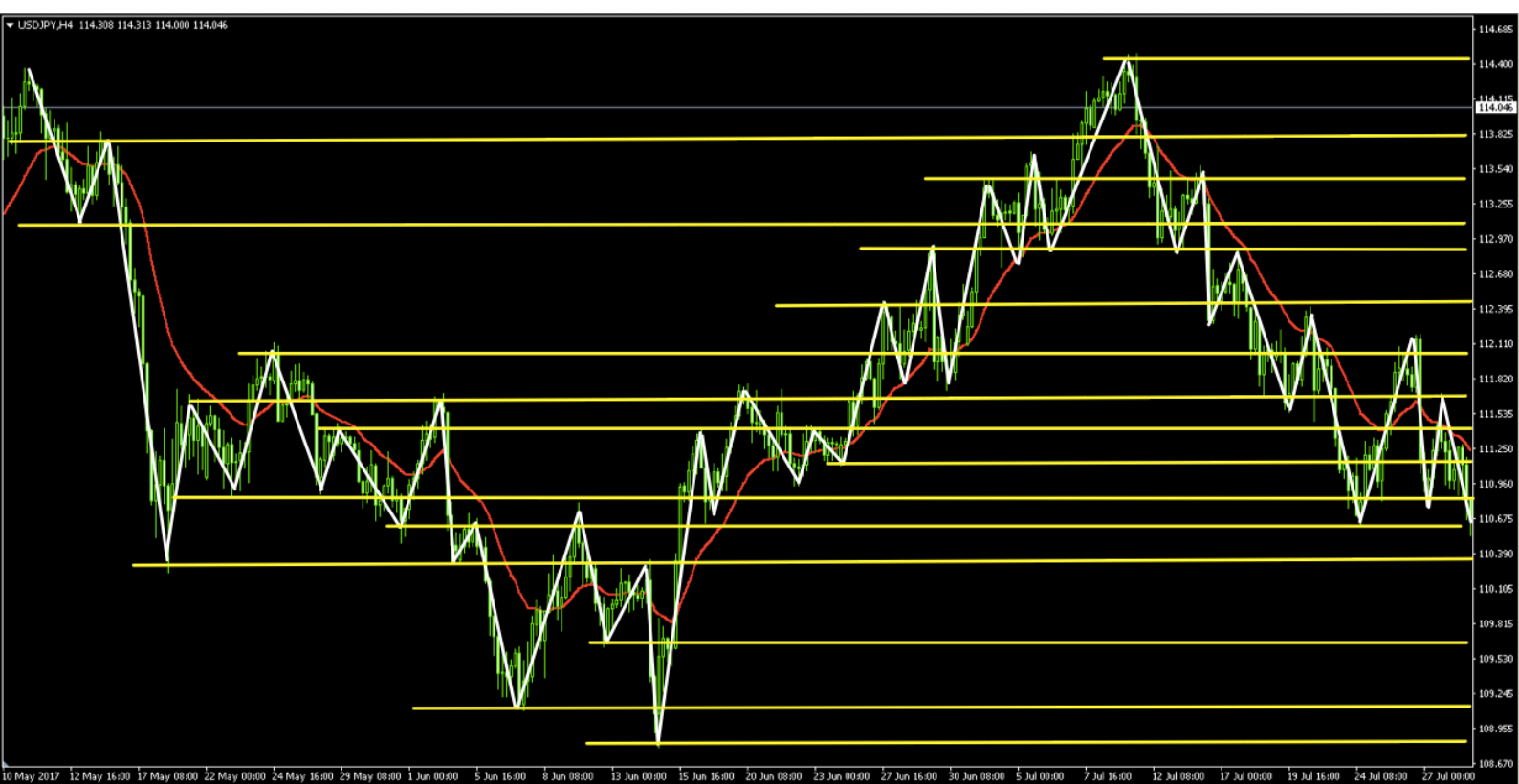


白線が動きが「波」になります。

こういう風にして「**波の動き**」をイメージすると
注目すべき高値、安値が浮かび上がってくるんです

つまり、白線の波のが「上→下」に「下→上」に
切り返してるポイントこそが注目すべきところであり
重要な高値、安値のポイントになるわけです。

この波の動きをイメージしたまま
白線の波が切り返しているところにラインを引いて見るとこんな感じになります↓



いや～見にくい！ 笑

白線の波が切り返しているところ全て引くとかこんな感じになります、、

かなり、見にくいですし
実際このラインを使ってトレードしても負けまくると思います

・・・うん??

さっきは「注目すべき高値、安値にラインを引くべき」って言ったのに
そのラインを使って負けまくるんだったらダメじゃん！って思うかもしれませんが

ここで、2の「支持点の数」を考慮します

こんな無駄に数だけ多いラインを引いても機能しないですし
機能しないということは、やっぱり勝てないです。

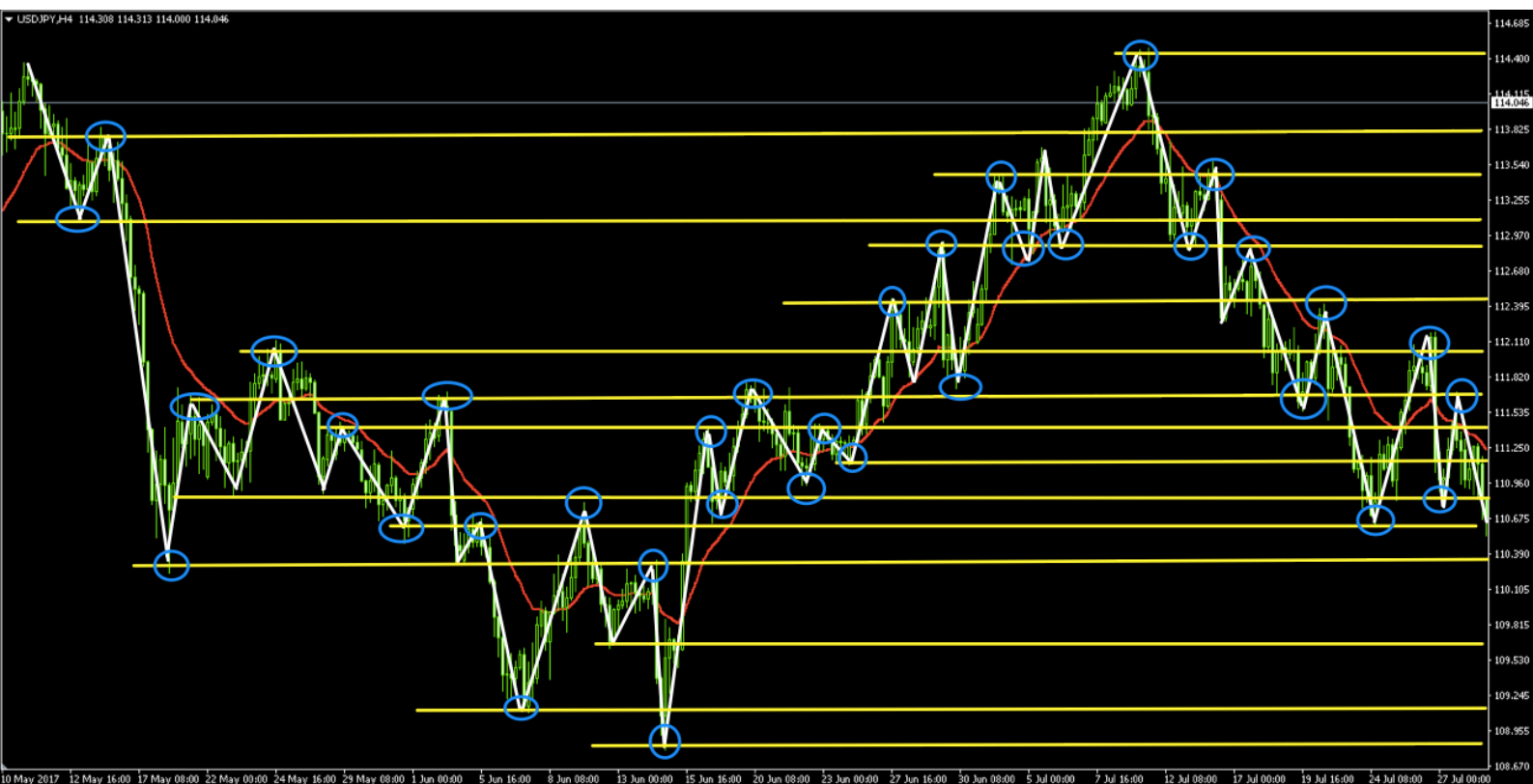
じゃあどうすればいいのか？と言うと
実際にトレードに使えるライン、つまりしっかりと「意識されるライン」だけを
ここから絞り込んで無駄なラインを排除していくんです

で、そのために利用するのが「支持点の数」になるんです。

では、その「支持点」とはなんぞや？というところからですが

簡単に言うと「レートがそこで止められたという事実」があるポイントのことです。

↓の画像を見てください



青丸のポイントは黄ラインに止められているポイントです。

「止められている=黄ラインで支持されて反発している」

ということになり、つまりこの青丸が支持点になるということなので

「支持点の数」とは、この青丸の止められている事実の数ということになります。

ここまで来ると、もうお分かりかもしれないですが

「結論から言うと、支持点の数は多ければ多いほど良いです」

なぜかと言うと

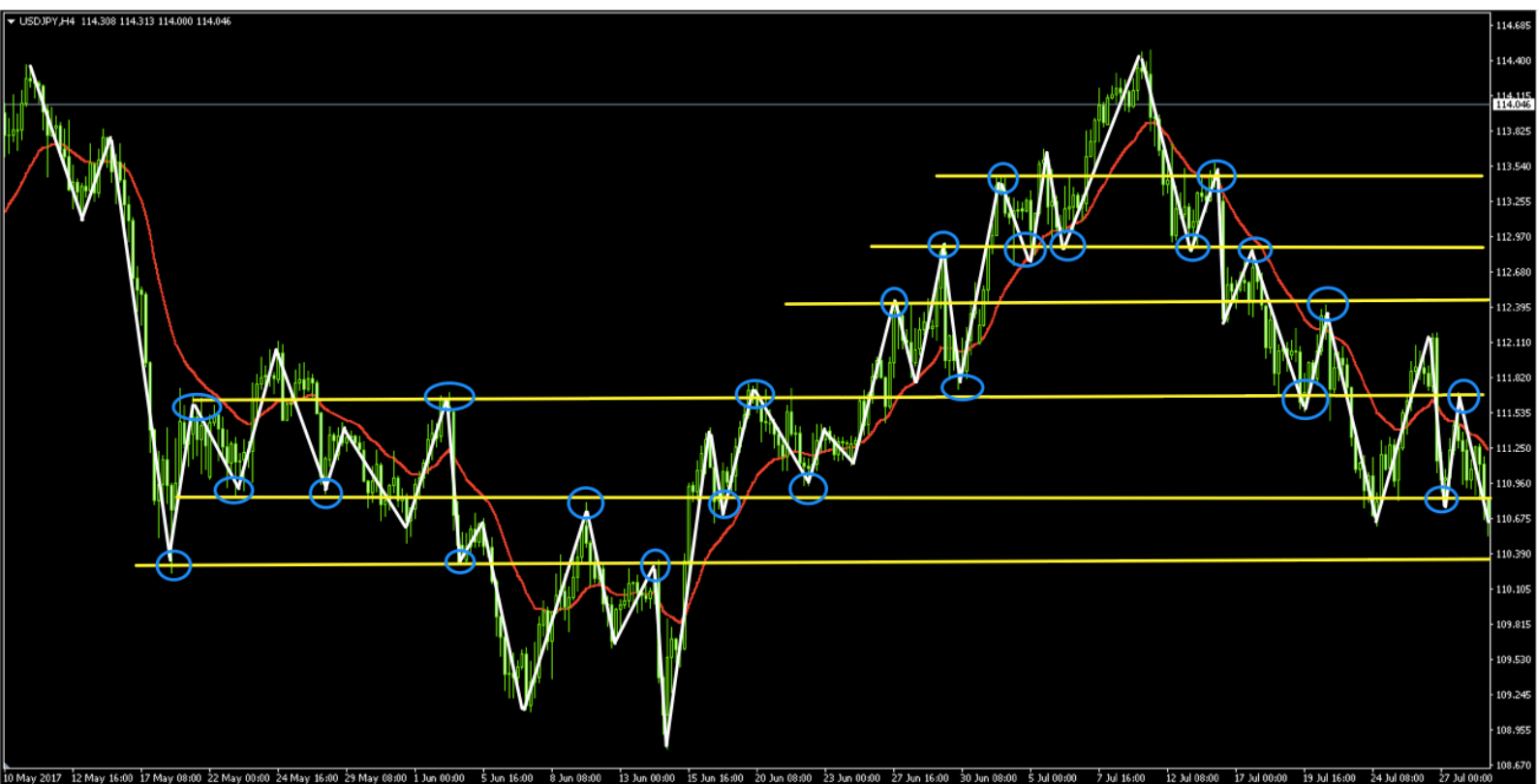
支持点が多いという事は、そのまま世界中のトレーダーが意識しているポイントに直結するからです。

世界中のトレーダーが意識しているから、そこで大量の注文が入り
その結果、そのポイントで跳ね返されるという事象に繋がるわけです

そういう世界中のトレーダーが意識しているポイントが
先程言った通り、「支持点が多い」という事実としてしっかりとチャート上に現れている
ということなんです。

では、この「支持点の数」も考慮して

先程の黄ラインを、「意識されているライン」のみに絞ってみましょう



どうでしょう？

だいぶ、スッキリして見やすくなりましたね。

これが、洗練された「意識されているライン」になります

このラインをレジスタンス、サポートに使って
トレードをしていくわけです。

あと、ラインを引く上でもう一つ大事な考え方があります。

3、の「ラインはある程度アバウトに考える」です

どういう事かと言うと

これは、ラインに対しての相場の動き方の部分です。

サポート、レジスタンスをされたどうか？という判断にも繋がってきますが
ラインが意識され、効いていると判断できる許容範囲の事です

要は、そのラインを1 pipsでも抜けたら「よし抜けた！」という判断をするのではなく
ある程度アバウトに「そのライン付近」という風に考えるという事です。

というのも、自分が引いたラインで

1 pipsの誤差もなくピッタリ反応して跳ね返してくるという事はほぼありません。

仮に、そのライン付近のエリアが意識されている状況だとしても

そのライン自体が、そのまま誤差なく意識されているというわけではなく

「そのラインを中心としたその付近のエリア」が意識されているという事なので

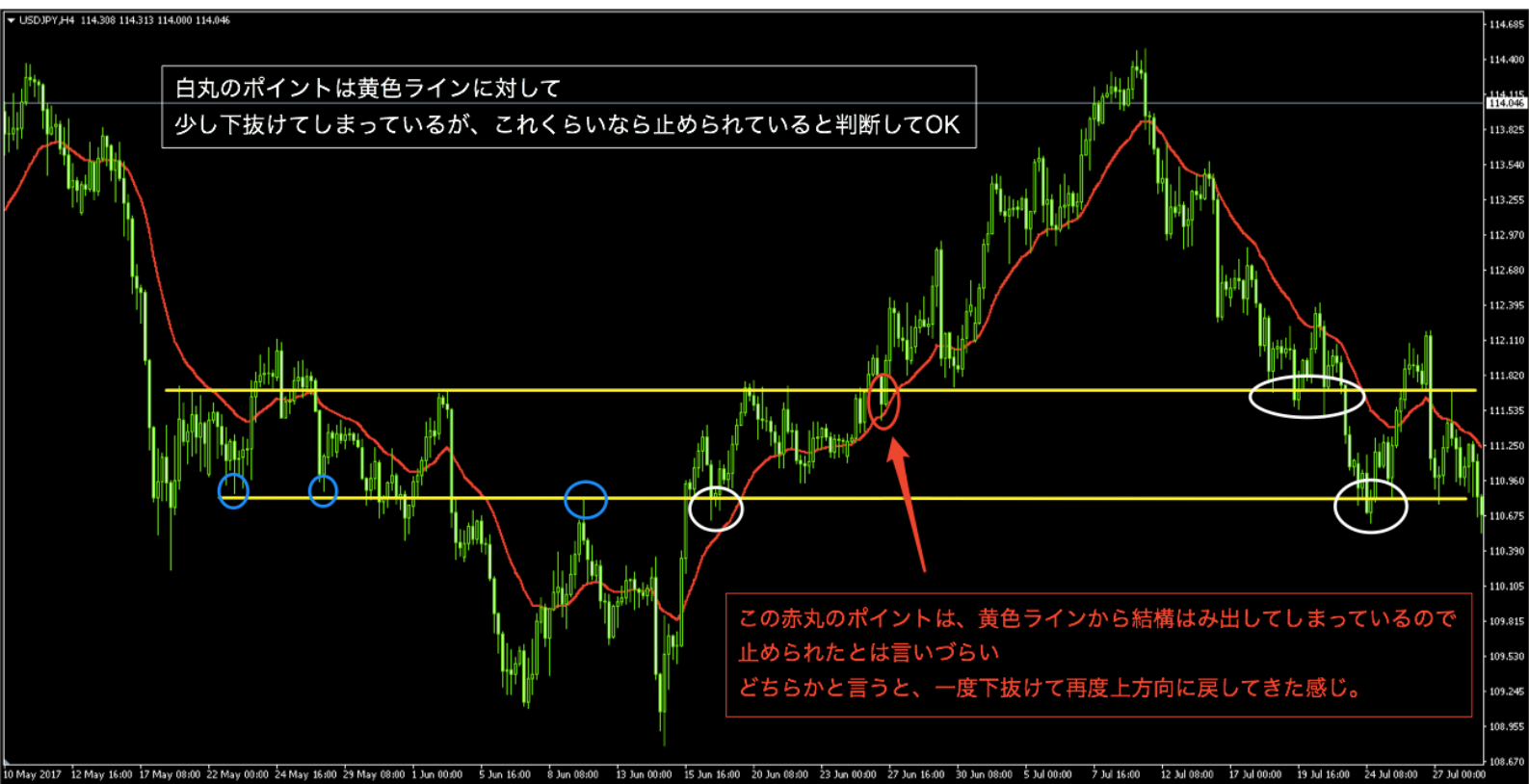
同じところに引くラインでも、引く人によって3～5、6 pipsくらいの誤差は普通に出ます

なので、ある程度の余裕を持ってアバウトに捉えてほしいとはこういう事です。

ですが、あくまで「そのライン付近」なので
その許容範囲を広げ過ぎてもダメです。

言葉よりも画像を見てもらった方が早いですね

↓の画像を見てください



(見やすいように白線の波の動きを消しました)

先程と同じチャートですが、青丸のポイントは綺麗に止められているので特に問題はありません。

白丸もこれくらいのはみ出しであれば
黄ラインで止められていると判断しても大丈夫です

問題は赤丸です。

この部分は、黄ラインに対してそこそこ大きくはみ出しているので
止められているとは言いづらいです

どちらかと言うと、一度黄ラインを下抜けて
再度上に上げていったという判断が適切です。

では、赤丸のようにラインに止められているという許容範囲を広くしすぎると
どういう事が起きるか？というと

世界中のトレーダーはそのラインで「止められた」という判断をしていないけど
自分だけはそこで止められたという判断してしまっているので
当然、その後のトレードにも悪影響が出ます。

要は、自分一人だけがチャートの見方が間違っているんです。

FXって基本的に「みんなが買うところで買って」、「みんなが売るところで売る」という大衆に合わせた行動をしなければなりません

自分一人の力じゃ相場を動かせないから
皆んなの力を借りて、自分もそれに乗っかるというイメージです

なので、自分の一人だけがチャートの見方が間違っているというのは大問題なんです。

極端な話、世界中のトレーダーが「買いポジション」を持ってるのに
自分だけ「売りポジション」を持ってるというような現象と同じです

そうすると、大衆が買いポジションで作った上げの流れに絶対に飲み込まれます。

圧倒的な取引量を誇るFXの世界で自分一人だけが
逆の方向を向いていては勝ち続けられるはずありません。

かならず、同調してくれる「大衆」が必要です

**だから、ラインはある程度はアバウトに考えなければいけないが
アバウト過ぎてもダメということなんですよ。**

常に大衆と同じ判断をしなければいけないという事です。

まず、正しいラインを引く上で重要な3つのポイントを話してきましたが
ここまでは付いてこれてますか？^^

もう一度、おさらいすると

1、「必ず高値、安値を意識して引く」

2、「支持点の数」

3、「ラインはある程度アバウトに考える」

この3つです。

これは正しいラインを引く上で、めちゃくちゃ重要な事ですが
まだまだ基礎中の基礎になります。

これを読んでも皆さんにはこれらを瞬時に同時に考え、無意識でもこれら3つのポイントが

「癖付いていて勝手に意識できている状態」にまで持ってってもらいたいと思ってます

(例えるなら、外出するときに家の鍵を閉めたか？戸締りはちゃんとしたか？ということを感じてはいるけど、**無意識にできている状態**のような感じです)

この、「無意識だけど意識できている状態」になれば
そこそこ正確なラインを引けてるはずですが
それでも、まだまだ半人前です 笑

先ほども言いましたが、
ここまで、話した内容はまだまだ基礎中の基礎で
これから、さらに「**ラインの強弱の見極め方**」や
「**具体的にどういう動きのときにはどこに強いラインが引けるのか？**」
「**相場の流れや段を意識したさらに強固なラインの引き方**」
「**絶対に覚えてもらいたいラインに対しての動き方のケースバイケース**」
「**ラインが効力を失う時、引きなおす時**」

などなど、教えたことは他にもまだまだあります

そして、これらを全て理解、習得して一人前になってもらいます^^

ということで、ここから先も
どんどん進んでいくのでしっかり付いてきてくださいね。

1-2、ラインの強弱の見極め方

次は、これまでに話した「正しいライン」の強弱についてです。

ラインってどれでも一定の強さに見えて実はそうではありません
ラインにも「強いライン」と「弱いライン」があります。

ここでいう、ラインの強さとは「固さ」と考えてください

**つまり、ラインが強いほど固く、ブレイクしづらいので
跳ね返されやすくなるということです**

レートが跳ね返されやすい強いラインを見つける事が出来れば
そこだけを狙ってトレードすることができるので
結果として、勝ち続けていけるということに繋がります。

では、実際にどうやって
その強いラインを見極めていくのか？という事なんですが

強いラインを見極める際の重要なポイントとしては
ズバリ、「相場の流れと形（チャートパターンなど）」です。

**つまり、相場の流れに合わせて、さらに形やチャートパターンを
意識して引くラインが、より強いラインになり得るということです。**

と、なると当然

「どういう流れや形を意識すればいいの？」という疑問が出てきますよね。

なので、今回は特に意識すべき「形」と「流れ」に対して
「こういう動きのときには、こうラインを引く」という、具体例を出して
ケースバイケースで説明していきます。

種類ほどありますが、一つずつ理解して確実に消化していってくださいね

①、「相場の段」を意識してラインを引く

まずは、ブログでも紹介した「**相場の段**」を意識して
ラインを引く方法です。

段を意識したラインはかなり強く、また意識もされやすいので
絶対に覚えてください

これについては動画でも説明していて、もう見たという方もいるかもしれませんが
まだ見ていないという方はこちらを見てください↓

[意識されるラインの引き方 《相場の段を意識する》](#)

(↑クリックすると動画ページへ飛びます)

動画内で説明しているように
結構誰にでも判断がしやすく、かつ強いラインになるので
ぜひ、実際のトレードにも活かしてください。

動画だけじゃイマイチ理解できないという方に
画像を使って説明するので、↓のチャートを見てください



先ほどの動画で使ったチャートとは違うチャートです。

ここに「段」を意識してラインを引くとしたらどこになると思いますか？

少し考えて、自分の頭の中でラインを引いてみてください。

、、、

、、、

、、、

正解はこんな感じになります↓



白ラインを境に「段」が切り替わってるので

「段」を意識した時に引くべきラインは↑の画像のような感じになります。

赤の四角と青の四角で囲った

「どっちつかずのエリア」を注目すると
自ずとラインを引く場所というのも見えてくるはずです。

なので、どこにラインを引けるのだろう？と漠然と探すのではなく

まずは、「段」が出来ているか？というのを探しそこに対してラインを引いていく。
というのが、まだ意識されるラインをどこに引けばいいのか分からない人にとっては
意識されるラインを見つけ出す一番簡単な方法です。

ちなみに、「どっちつかずのエリアだからトレードが出来ない」
と思っている方をたまに見かけますが

そんなことはなく、「どっちつかずのエリア」でも
全然トレードしてOKなのでそこは勘違いしないでくださいね

あくまで、どっちつかずのエリアは
この意識される強いラインを見つけ出すために利用する相場の流れの一つと捉えてください。

しっかりと、「段」を見つけられるようになってくださいね^^

では、次のケースを説明していきます。

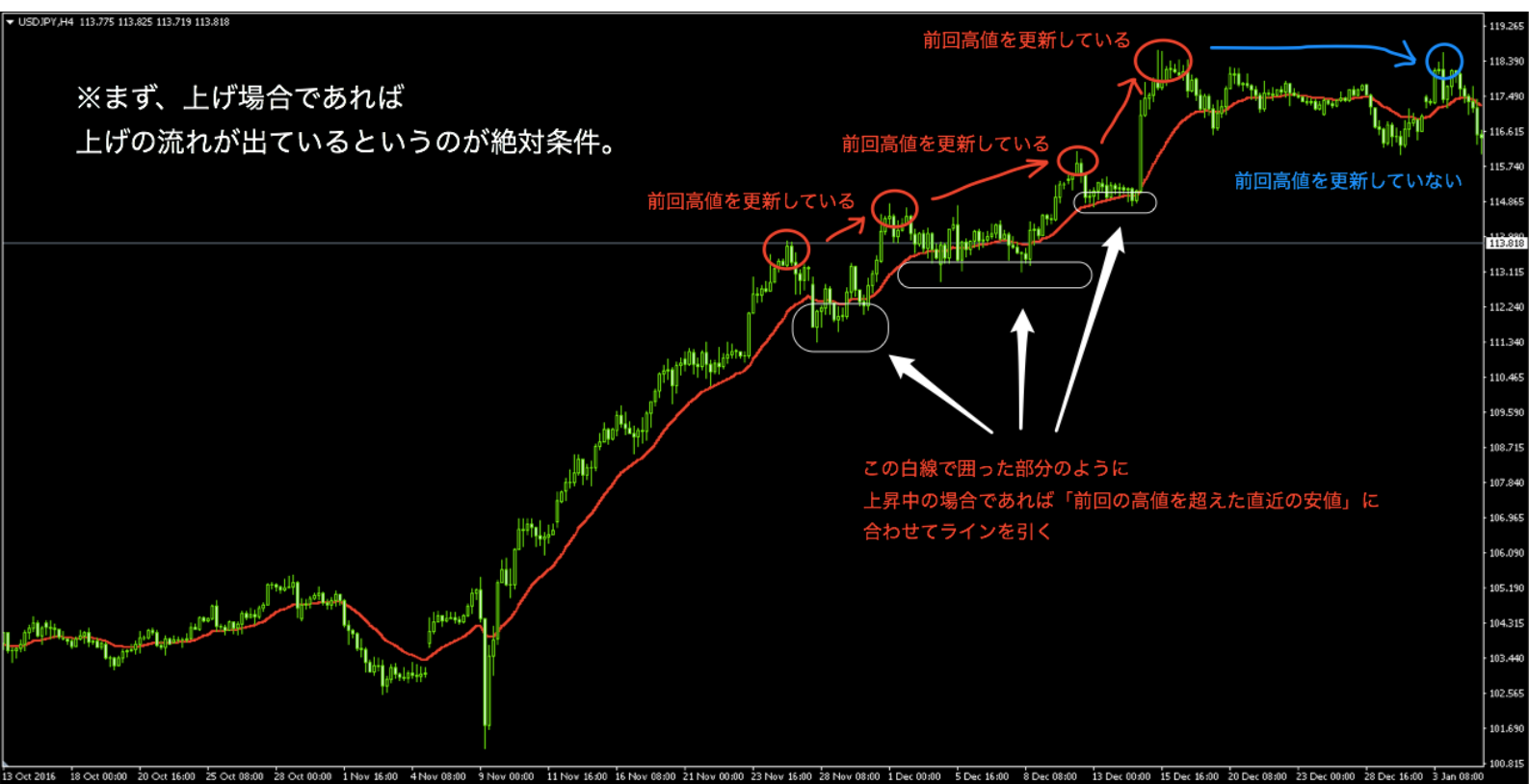
②、「高値安値を更新した前回の高値安値」を意識してラインを引く

一瞬、ん？？ということ？？となると思いますが

これは、上昇なら上昇、下降なら下降の流れが出来ているときに
「上昇中なら前回の高値を更新した直近の安値」
「下降中なら前回の安値を更新した直近の高値」を意識してラインを引く
ということです。

いまひとつ分かりにくいかと思いますので
まず理論から詳しく説明していきますね。

↓の画像を見てください



※まず、上げ場合であれば
上げの流れが出ているというのが絶対条件。

理論的にはこういうことです。

つまり、上げの流れが出ているときに
前回の高値を更新して伸びていくという動きがあったとします。
(赤丸ポイントです)

上げの流れが出ているので高値、安値を同時切り上げているということは
当然といえば当然のことですが

**この前回の高値を更新したことによって、白線で囲った直近の安値が
かなり意識されるポイントになります。**

なぜかという、前回の高値を超えるということは
その高値の付近よりも「買い」の圧力が大きくなっているということなので
じゃあこの「買いが大きくなった原因」はどこ??と、考えると

「1-1 正しいラインは〇〇を意識して引く」のところでも言ったような
波の動きを見ると分かりますが、**直近の安値（白線で囲ったところ）で下げ止まり
そこでみんなが一斉に買ったから。ですよ**

こういうこともあり
結果的に買いがより大きく膨らみ、前回の高値を更新するという事象に繋がったわけです。

なので、そのみんなが「買うキッカケ」になった安値は
どうしても意識されてしまうポイントなんです。

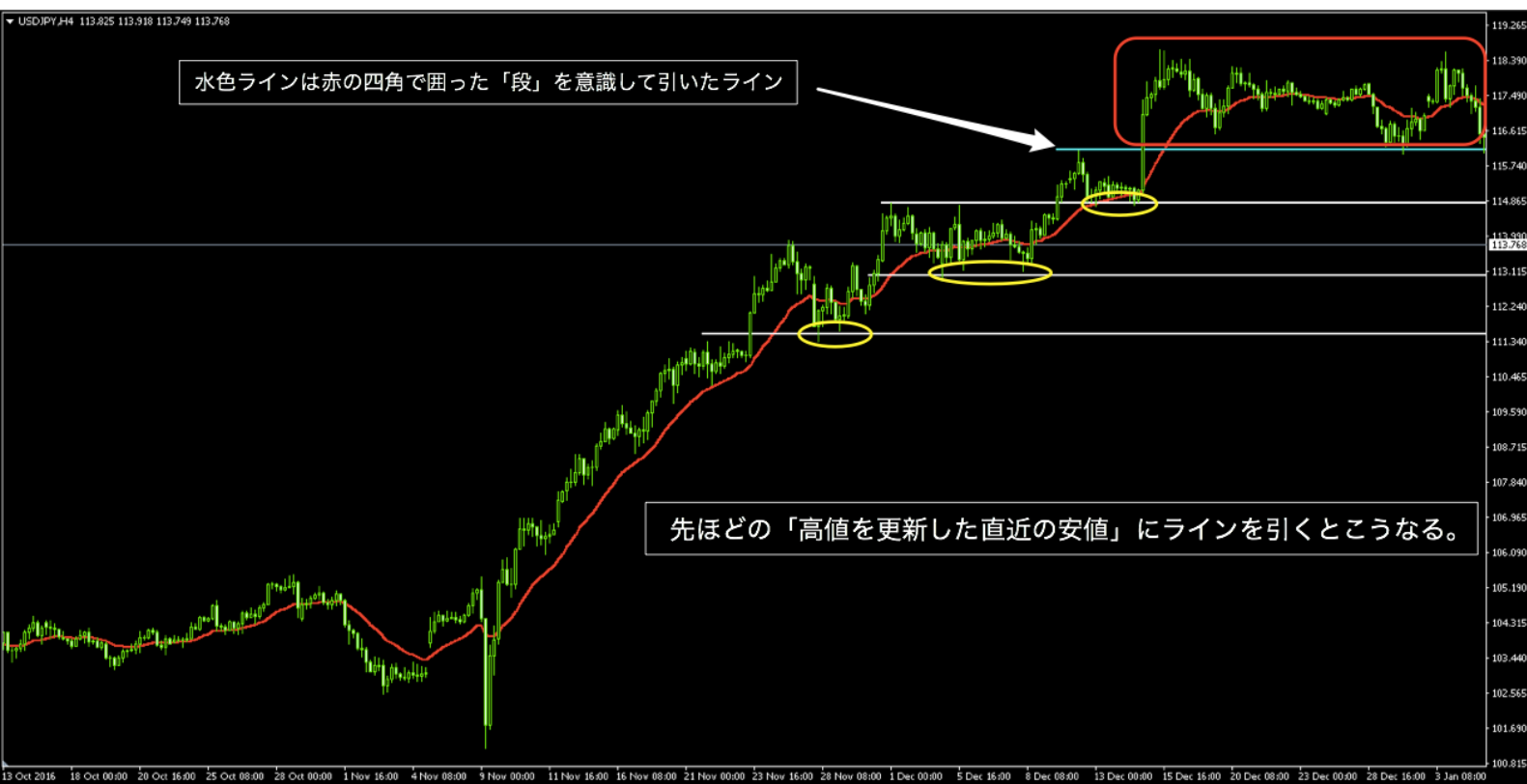
なので、ここに合わせてラインを引いてください。

そして、上のチャートを見ると
最後に高値を更新していないところがあります。
(赤丸→青丸のところです)

この場合は、当然高値を更新しておらず
買い注文がそれほど多くないという判断ができるので
直近の安値もそれほど意識されないことが多いです。

ただ上のチャートの場合は
たまたま、先ほど説明した「段」を作ってるので
青丸の高値のすぐ下の直近安値に引けるラインは意識されます^^;

で、実際にこの白線で囲った安値に
ラインを引くとこんな感じになります↓



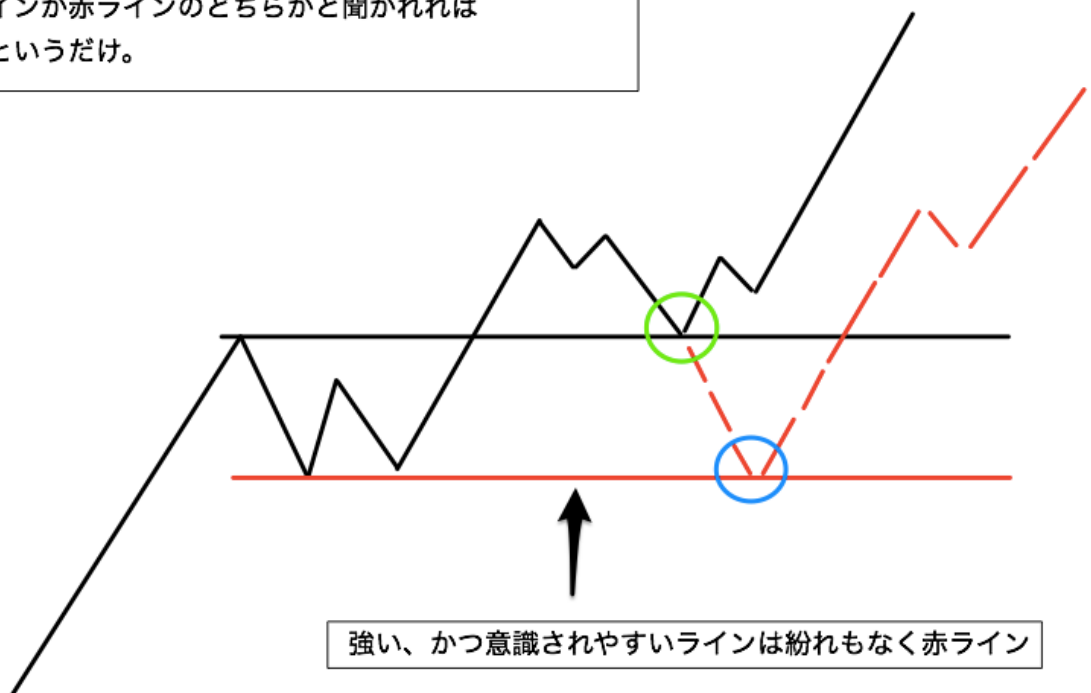
白ラインが「高値を更新した直近の安値」に引いたラインです。
(水色のラインは先ほども言いましたが「段」を意識して引いたラインです)

で、ここで鋭い人や多少の経験がある人は
一つの重大ことに気がついたかと思います。

そもそも上昇中であれば高値にラインを引いて、そこを更新すれば
次はそのラインで下げ止まると予想できるのか??と、、、

図で説明すると↓のような感じです

もちろん、黒ラインで下げ止まりそこから上げに転じていく場合もあるので
ここにラインを引くのは全然間違いではない。
ただ、強いラインが黒ラインか赤ラインのどちらかと聞かれれば
「赤ラインの方が強い」というだけ。



黒ラインはいわゆる、ネットや書籍などでよく紹介されている
前回の高値にラインを引いてそこから反転上昇していくところを狙おう。

というようなラインだが、もちろんこれは間違いではない。

当然、ここから上げていくというパターンもあるので
ラインの引き方自体は間違っていないが問題はその「強さ」

緑丸のポイントと青丸のポイントでは
やはり、断然青丸のポイントの方が意識されやすい

理由としては、先ほども言った通り「上げるきっかけになった安値」だから。

そして、青丸でサポートされているという判断をした後に
買いでエントリーをしたとしてもその後の狙える値幅も
青丸から上げていく動きの方が大きいんです
(赤点線のような動きを狙うのがセオリー)

つまりはこうです。

「黒ラインから上げていく場合も当然ある。」
だが、
「赤ラインから上げていく場合の方が勝率も高く、かつ値幅も大きく狙える。」

ということです。

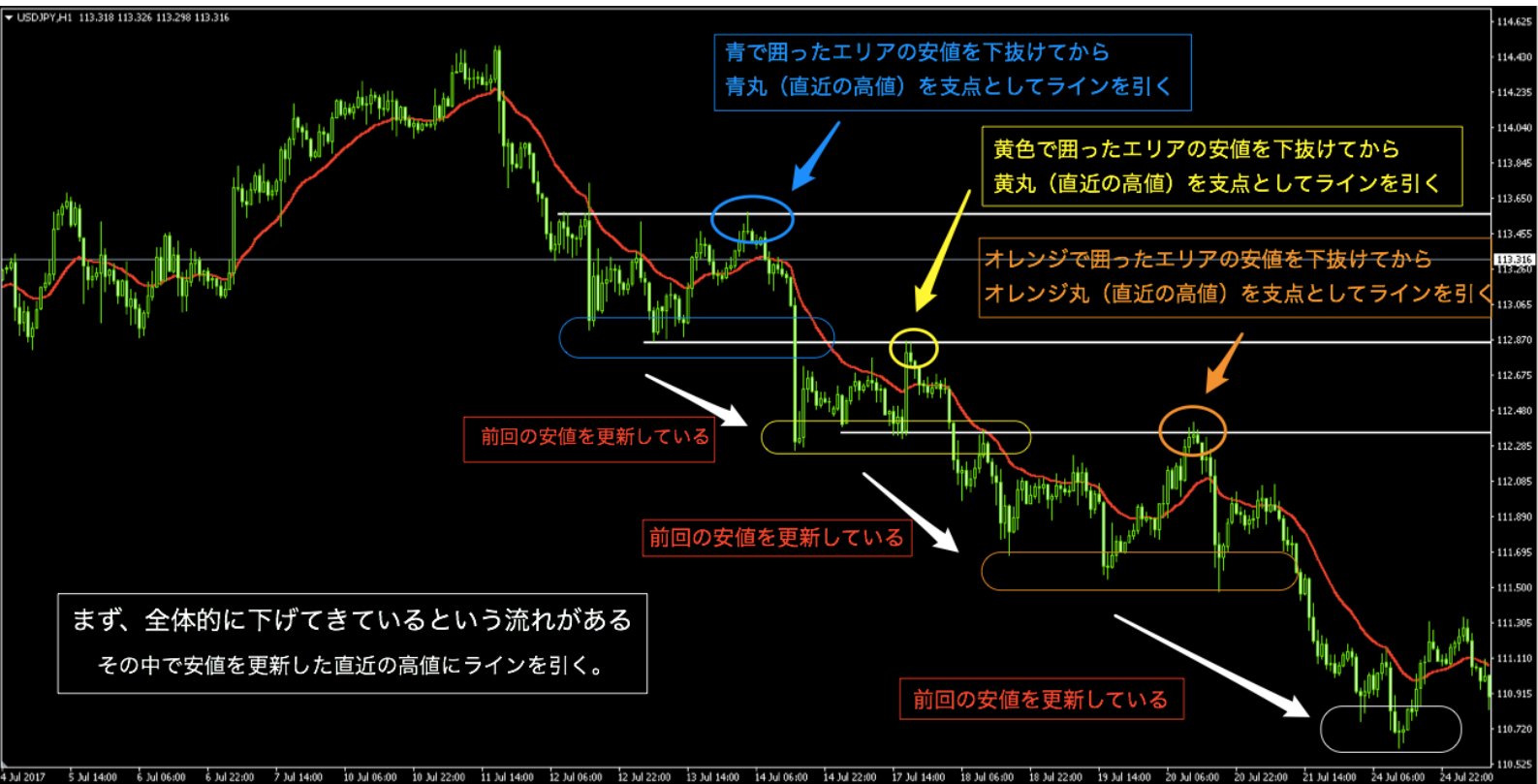
この2つの選択肢があり、どちらか一つを選ぶとするなら
当然、「赤ラインからの上げ」の方を選びますよね 笑

だから、この安値にラインを引いてそれを使ってトレードするんです。

では、次は「下げ」の流れが出ている場合の引き方も説明していきます

今までは、上げの流れで説明してきましたが
上下が逆になるだけで全く理論は同じです。

↓のチャートを見てください



先ほども言いましたが
流れが逆になり高値、安値の考え方が逆になっただけなので
なにも難しいことはありません。

上のチャートは少し見にくいですが
まず、下げの流れが出ている。
そして、その中で「前回の安値を更新した直近の高値」にラインを引く。

これだけです 笑

やはり僕自身、長年相場を見ていく中で
ファンダメンタル的要因が作る、長期間に渡ってできるトレンドなどでも
結局は「流れが出来ている」ということには変わりなく

流れができれば、その流れを作った原因が何であろうと
どうしてもこういったポイントには常に意識されてきてるんですよ。

なので、いつの時代になっても、勿論これから先も
常にトレーダー達が意識し続けていくであろうポイントだと思ってます。

だからこそ、このラインも
しっかり引けるようになって実践に活かしてってくださいね^^

では、次のケースです。

③、「ネック」を意識してラインを引く

相場の流れや動き方に対してのラインの引き方について
いまのところ、2つのケースを説明してきましたが
とりあえず、ここまでは付いてこれてますかね？^^

内容的にはあまり難しくないと思いますが
これから、徐々により具体的に細かくなっていくので
しっかり付いてきてくださいね。

さて、次のケースは「**ネック**」を意識したラインの引き方です。

よく、ダブルトップやダブルボトム、三尊（ヘッド&ショルダー）などの
チャートパターンで「**ネックライン**」という言葉聞いたことですかね？

多分、ほとんどの人が知っていると思いますが
「**ネック**」を意識してラインを引く。というのは
その「**ネックライン**」を意識してラインを引くと同義です。

そもそも、「ネックライン」とは？という方に向けて、改めて説明すると

「ネックライン」とは、相場が作り出すチャートパターンでも
主に「**ダブルトップ、ダブルボトム、三尊、逆三尊**」
の首（ネック）の部分に引けるラインのことです。

このネックの部分に引けるラインは、非常に強く強いラインになるとして
相場の世界では有名すぎるくらいのラインなんです
事実、僕から見てもこのラインは本当に意識されやすいです。

じゃあ、なぜ意識されやすいか？というと
偏に「そのチャートパターン自体」が意識されるからなんですよ。

チャートパターン自体が意識される＝そのチャートパターンに引けるラインも意識される

というのは、**必然**なので覚えておいてください。

いいですか？

決して、ラインだけが単体で意識されるのではなく
チャートパターンや流れや動きがあってそれが意識されるから

その結果として、そこに合わせて引けるラインが意識されるんです。

この考え方はもの凄く大事です。

中身の無い、意味のない無駄なラインに
振り回されないためにも、絶対に頭に入れておいてくださいね。

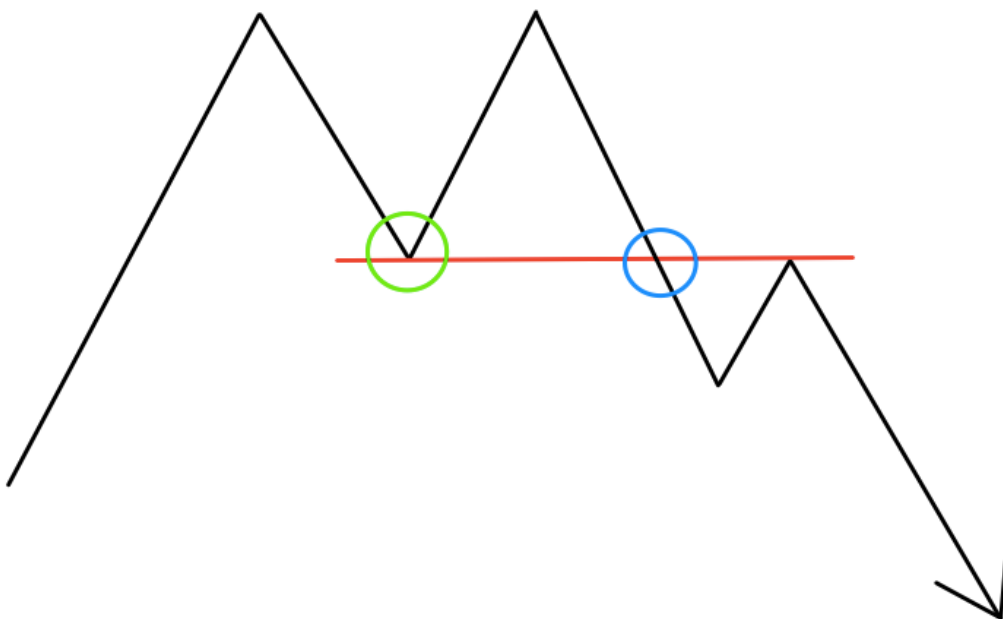
なぜそのラインが意識されるのか？
というのを説明出来るトレーダーはかなり少ないですが

これを読んでもあなたには、ラインが意識されるその「背景」までしっかり理解して
ラインを引けるようになってくださいね。

さて、話を戻しますが
そろそろ「ネックライン」の詳しい説明に移っていきます。

まずは↓の図を見てください

赤ラインを下抜けた時点でダブルトップが完成となり
その時点で「ネック」にラインが引ける。
(青丸のポイント)



これはダブルトップの場合ですが
簡単にネックラインの説明をした図です。

ダブルトップは、赤ラインを下抜けて初めて完成となります。

そして、完成後に緑丸の安値を起点として「ライン」が引ける。
というような理屈で

そこから、その「ネックライン」を使って売りで入るのが
まあセオリー通りというか、世の中では常識と言われているトレード方法です。

ですが、僕はこのダブルトップを見越した上で
MAの絡み方などを見て、もっと上の方で入って利益を大きく取りに行くという
世の中の一般的な入り方とは違うエントリー方法を使ってます 笑

僕の「[エントリーマニュアル](#)」や「[5つの奥義（エントリーパターン）](#)」を
読んでくれた方なら分かると思います。

ちなみにまだこれを読んでないという方は、有料ですが買って絶対に読んでくださいね。
（僕の具体的なエントリーの仕方や考えを記したもので確実に値段以上の価値はあるので^^）

では、次はこのダブルトップに引けるネックラインを
実際のチャートで見ていきましょう↓



白ラインがネックに引けるライン。
つまり、ネックラインになります

何度も言うんですが、このネックラインはダブルトップが完成して初めて効力を発揮します。

なので、まずはしっかりと
このダブルトップの判断ができるようになりましょう。

といっても、形はいたってシンプルなので
結構、誰でも簡単に認識できると思います^^

ちなみに、ダブルボトムも上下が逆になるだけで
理論は同じなのでそちらの説明は割愛して
次は、**三尊**に引けるネックラインを説明していきます。

**三尊に引けるネックラインはダブルトップやダブルボトムに引ける
ネックラインよりもさらに強力になるので
これも、絶対にトレードに活かしてください。**

三尊に引くネックラインも、「三尊」という形を認識できてさえいれば
結構簡単にラインを引けるのですが
その形の認識自体はダブルトップよりも若干難しくなります^^;

というのも、左右二つの高値の部分（肩）と、真ん中の一つ最高値の部分（頭）がどこか？
というのを実際に動いている相場では正確に判断できない人が結構いるんです。

後から相場を観て「三尊」が完成してからなら
「あ〜ここだったな」って分かるんですが

リアルタイムだと、どうしても動いているので目先に動きに惑わされたり、
複数時間足の判断で混乱したりするんですよね^^;

特に、「三尊」はあまり綺麗と言える形でなくても
それを「三尊」として認識できる場合もあるので
そこらへんの、「**三尊と判断できる崩れ具合の許容範囲**」というところも
初心者さんや経験がまだ浅い人にとっては少し難しいかもしれません。

ですが、その辺も三尊に注目して相場を監視していくと

「これくらいの崩れ具合なら、まだ三尊と判断できるな」

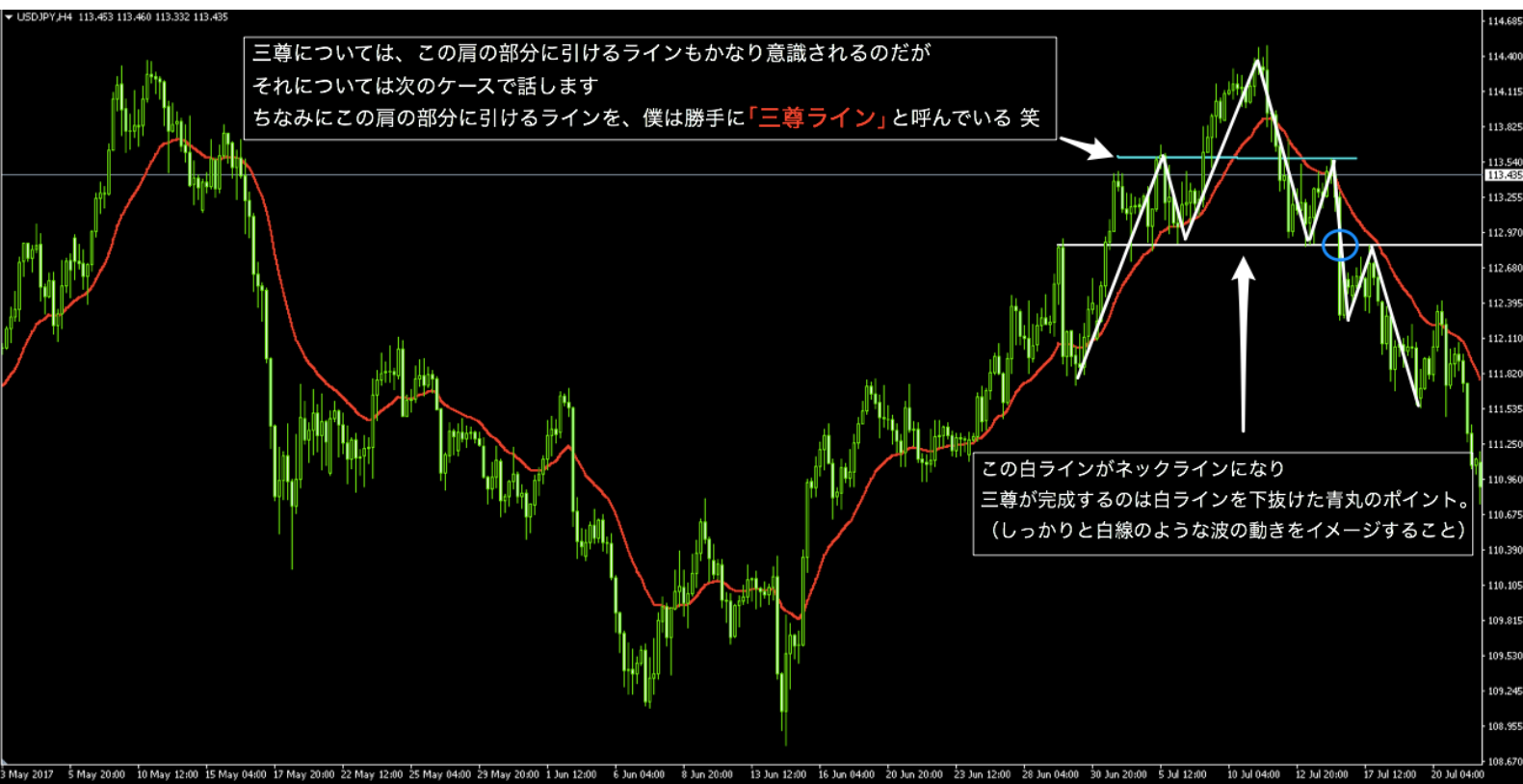
「さすがにここまで崩れると三尊とは言えないな、、、」

というように、形を見極める目が良くなって
絶対に分かるようになります。

なので、三尊の見極めが苦手だなと感じてる方は
特に三尊を中心に相場を観てみてください。

三尊は本当はかなり使える形なので^^

ということで、「三尊」のネックにラインを引くと
どうなるのか？というのを実際のチャートを見ていきましょう↓



ネックラインは白ラインのところになります。

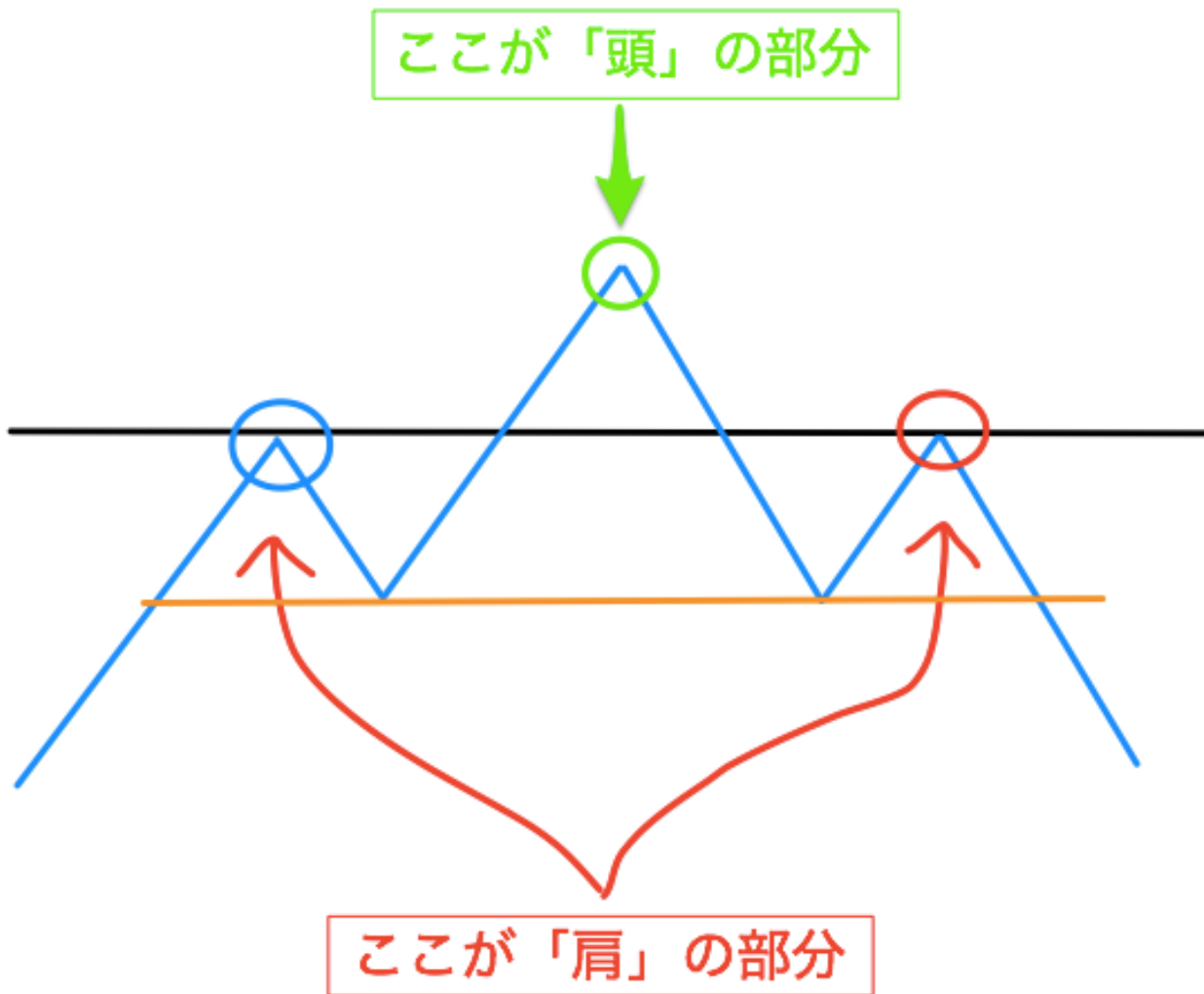
このラインは三尊の形が綺麗であれば綺麗であるほど
意識されやすくなり、より強固なラインになります。

ダブルトップと同じですが、このネックラインを下抜けて初めて三尊が完成したといえます。
(青丸のポイント)

一応、三尊のさらに詳しい説明を図にするとこんな感じになるので

まだ「三尊」自体がよく分からないという人は↓の図を見てください。

※青線が値動きと仮定してください



上の図が三尊の基本的な図なんですが、その過程を説明していきます。

※青線を相場の値動きと仮定してください

【三尊ができる仕組みと過程】

- 1、左から見ていき、まず上げてきてどこかのラインで高値止められる（青丸）
- 2、高値を止められたので少し下げてくる

3、少し下げてきたが、それほど深くは下げずに再び上げていく

(この時点ではまだオレンジのネックラインは引けない)

4、そして、先ほどの1で止められた高値（青丸）を上抜けていく

(この時点で、オレンジラインを引けるがまだネックラインにはならない)

5、最高値（緑丸）を付け、下に切り返し1の高値（青丸）に合わせて引いた黒ラインでサポートされることなく、再びそこを下抜けてくる

6、次は4で引いたオレンジラインに安値を止められて、さらに上に切り返す

7、上に切り返したが、その上げも限定的で再び黒ラインに高値を止められ、また下に切り返す

8、そして、そのまま下げていきオレンジラインを下抜けた時点で「三尊」の完成となる

三尊ができるまでの過程はこうですが、その三尊ができる仕組みも実はそんなに難しくありません。

「買いが弱いから上げきらない」

「売りが弱いから下げきらない」

を繰り返して「三尊」という形を作ってるんですよ。

その「買いが弱くて上げきらない」、「売りが弱くて下げきらない」というのが過程のところに書いてある、止められてる→切り返して逆の方向に行くところに繋がるんです。

なので、本当に**人間の集団心理**っていうのが目に見える形でチャートに現れてるんですよ。

ちなみに、逆三尊も上下が逆になるだけなのですが

三尊の場合ダブルトップ違い、たまにどこに引けばいいのかわからなくなる人がいるので一応紹介しておきますね^^;

こんな感じになります↓



次は白線の波のイメージがないですが、もう分かりますよね^^

白ラインがネックラインで、水色ラインが三尊ラインになります。

このネックラインの引き方も

形さえ認識できればそんなに難しくなく、形さえ認識できれば

後は、今言ったところにラインを引くとそこが自動的に意識されるラインになるので
形の判断が苦手な人は、まずはしっかりと形を認識できるようになってくださいね。

形を早く認識できるようになる方法としては

やはり、リアルタイムの相場で「**どうなったら三尊ができるだろう？**」と常に
形を意識してチャートを見ることです。

そうやって意識して観てるとチャート上に隠れている

「形」を認識できるようになってきます。

よく木や草に同化して外敵から身を守る虫いますよね？

その虫は分かりにくくて、見つけにくいが

「**どこかにはいる**」というのを意識しながら探すのと同じような感覚です 笑

慣れてくると、それらを意識しなくても

チャート上にハッキリと鮮明に浮かび上がってきて

まるで同化していない虫のように、どこにどの形があるか一瞬で分かるようになります。

なので、このようにして少しずつでもいいので

しかし着実に上の図やチャートの形を参考に「**正しい形の認識**」を
できるようになっていってくださいね^^

ちなみに、汚い形は覚えなくてくださいね 笑

汚い形を正しいと思い込んで癖がついてしまうと大変なので、、、
まずは、正しい形の認識からです。

「もう形が認識できる！」という人は、後はネックラインを引いて

それをトレードに活かすだけなので

そのラインをもとに「[エントリーマニュアル](#)」に書かれている

「**ゾーンを分ける作業**」や「**具体的なエントリーの仕方**」をマスターしてください^^

では次のケースに移っていきますね。

次はネックラインとは別なんだけど

「三尊」の肩部分を意識したラインの引き方を説明していきます。

といっても、これは先ほど少しだけ話した「三尊ライン」のことで
度々、ブログやメール講座でも出てくるので知ってる人は多いかもしれませんが
これもしっかり、意識されて強いラインになるので説明していきますね^^

④、「三尊」を意識してラインを引く

まず、「三尊」を意識してラインを引く。というのは
どういうことかというと

三尊の形を見越して、三尊完成前に
両肩の部分に合わせてラインを引くということです。

つまり、僕が「三尊ライン」と呼んでるものですね 笑

この「三尊ライン」のポイントとしては
「**三尊完成前に引く**」というところなんです
こうなると、当然「**なぜ、三尊完成前に引くの？**」という
疑問が出てくるんじゃないですかね？^^

簡単にいうと、「勝ちやすいエントリーの仕方」に繋がってくるんですが
これは「**5つの奥義**」の方でしっかり説明してるので、是非そちらを見てください。

今回はあくまで、「意識されるラインの引き方」に焦点を当ててるので
具体的なエントリー方法などはとりあえず置いておきます^^;

では、「三尊ライン」の具体的な引き方や引く場所について説明していきます。
先ほどのネックラインのところでも少し出てきましたが
↓のチャートをご覧ください。



黄丸の肩部分に合わせて引いた白ラインが、**三尊ライン**です。

この三尊ラインも当然、かなり意識されやすいラインになります。

さきほど、この三尊ラインは完成前に引く
つまり、三尊が完成してから引くのでは遅いと言いますが

それでは、この三尊ラインはいつ引けるのか？
相場どうなって初めて引けるのか？というのを時系列で見ていきましょう。

まずは↓のチャートを見てください。

EURUSD:M30 1.17318 1.17331 1.17313 1.17320

分かりやすくために先ほどのチャートの一つ下位の足。

まだ、この時点では上げてきているだけなので「三尊ライン」は引けない。
三尊の「頭」の部分も作っていないので、とりあえず下げてくるのを待つ。



この時点では、まだ上げてきているだけなので
当然「三尊ライン」は引けません。

なので、まずは三尊の「頭」の部分ができるのを待ちます。

当たり前のことですが、「頭」が出来るには
一度下げてきてしっかりと「ここが最高値だ」というのを確定させなければいけません。

現時点では、まさに上げている途中になるので
ここから、まだ上に伸びていく可能性もあり
ここが最高値とは判断できません。

で、そこから時間が経ったチャートが↓の画像です。



その後、高値を付けて下げてきましたね^^

ですが、まだここが「頭」と断定するには早いです。

なぜなら、画像にも書いてある通り

「前回の高値に引いた白ラインでサポートされて、上げていく場合があるから」なんですよ

そうなれば、上げの流れが続行なので

赤丸の高値は「頭」とは言えなくなりますよね^^;

じゃあ、どうなれば「頭」が完成するのか？ということですが

これは、「**白ラインを下抜けたら**」です。

白ラインを下抜けると「頭」の部分が完成するのと同時に

右肩の部分ができる可能性も出てくるので、その時点で初めて三尊の形が見えてくるんですよ。

なので、この時点で見なければいけないのは白ラインで

「跳ね返されるのか？はたまた「跳ね返されず、下抜けていくのか？」

というところになります。

で、その後はというと↓



白ラインでサポートされることなく、下抜けてきましたね。

なので、ここで初めて「頭」が完成したと言えます。

こうなれば、先ほどと比べて「左肩」も意識されやすくなるので

チャートが自ら「左肩」があるからという理由で「右肩」を作りに行く場合も少なくないです。

じゃあ、「右肩」はどうなればできるのかというと

次は白ラインでレジスタンスされたら、つまり上に行くのを止められて

「ネックライン」を下抜けて初めて「右肩」が完成になり

ひいては、「右肩が完成」＝「三尊が完成」ということになるんですよね^^

↓のチャートはその後の相場です。



ここで一つあれ？？って思うことはありませんか？

さっきは「三尊が完成してからだと入るのが遅い」って言ってたのに、、、

そうなんです。

「右肩が完成した」ということは同時に「三尊が完成した」ということなので
この三尊ラインを使ってエントリーをしていこう！としたときに
右肩の完成を待つのも遅いということになるんですね。

要は、右肩の完成が三尊の完成に繋がるんだから
その右肩の完成を見越して三尊ラインからのエントリーを考えなければいけないんです。

となれば、エントリーをするべきは↓のチャートの黄丸付近になりますよね^^



何度も言うんですが、あくまで三尊ラインを使ってエントリーをしようと考えた時に
三尊が完成してからでは、既に手遅れだから
完成する前に、完成を見越して三尊ラインからエントリーをしなくちゃいけない。

ということになります。

それが、黄丸のポイントだということです^^

ちなみに、画像にも書いてありますが

③、「**ネックラインを意識してラインを引く**」のところでも話したように
ネックラインも当然意識されやすいラインになるので
このネックラインからエントリーを仕掛けていくというのも全然OKです。

今回は三尊ラインの引き方やその使い方を
説明したというだけにすぎないので、そこはお忘れなく 笑

ちなみに、逆三尊の場合も今までと同じように上下を逆にするだけです^^

では、次のパターンに移っていきますね。

⑤、「一度抜けたライン」を再利用する

次は、「一度抜けたライン」を再利用する。というパターンなんですがこれはどういうことかという、、、

例えば、上げの流れがあった場合に通常であれば
どこかのラインでサポートされてから再び上げていくところを狙う。
というのが基本の狙い方になりますよね。

ですが、今回のケースでは注目するポイントが
そのラインがサポートにならずそのまま下抜けていった場合なんです。

普通だとラインがサポートされず下抜けていった時点で
「サポートされなかった⇒意識されていない⇒そのラインはもう機能しない」
と考えて、もうそのラインを意識しなくなる人が多いかな？と思うんですが
実は、まだそのラインは強く機能する可能性を秘めてるんですよ。

それが、今回のケースで話す「一度抜けたライン」なんです。

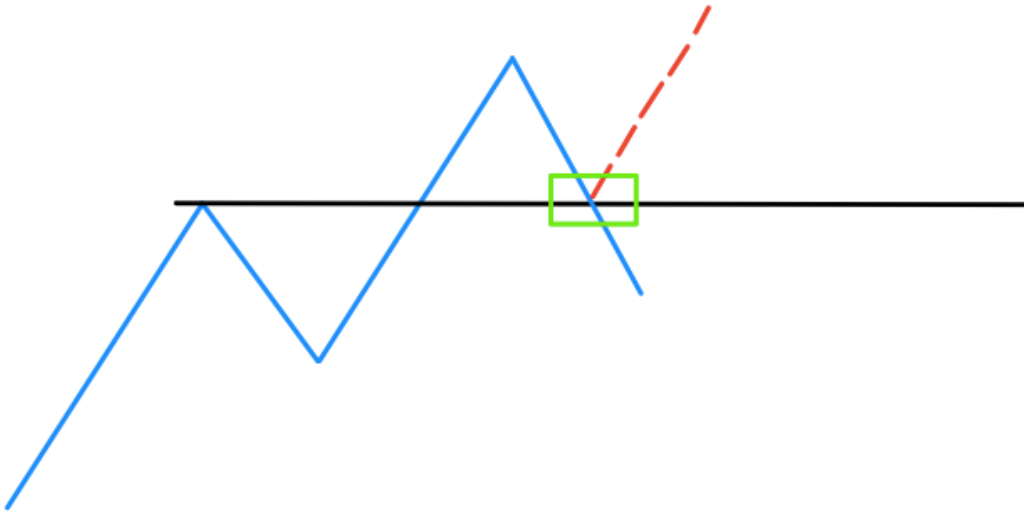
要は、「ラインが一旦は機能しなくなっても、その後機能する可能性がある」
ということですね。

じゃあ、相場がどう動いたらその「一度抜けたライン」が意識されやすくなるのか？
ということなんですが、図を使って時系列で説明していきます。

まずは、↓の図を見てください

【例えば、上げてきている相場があった場合】

緑枠のところでサポートされて上げていくというセオリー通りの赤点線の動きにはならず
黒ラインを下抜けてきたとする、、、
サポートされず下抜けてきたので、緑枠のところではこの黒ラインは機能していないということになる。
が、ここではまだ「このラインは機能しないな〜」からといって
この黒ラインを消したりしたり、意識の外に外すのはまだ早い。



こんな感じで、上げの場合だと
緑枠でサポートされてから上げていく赤点線の動きがセオリーになるんですが

そのセオリー通りの動きにならず
黒ラインのサポートを下抜けたところです（青線のような動きが相場の動きを表している）

つまり、これが「一度抜けたライン」となります。

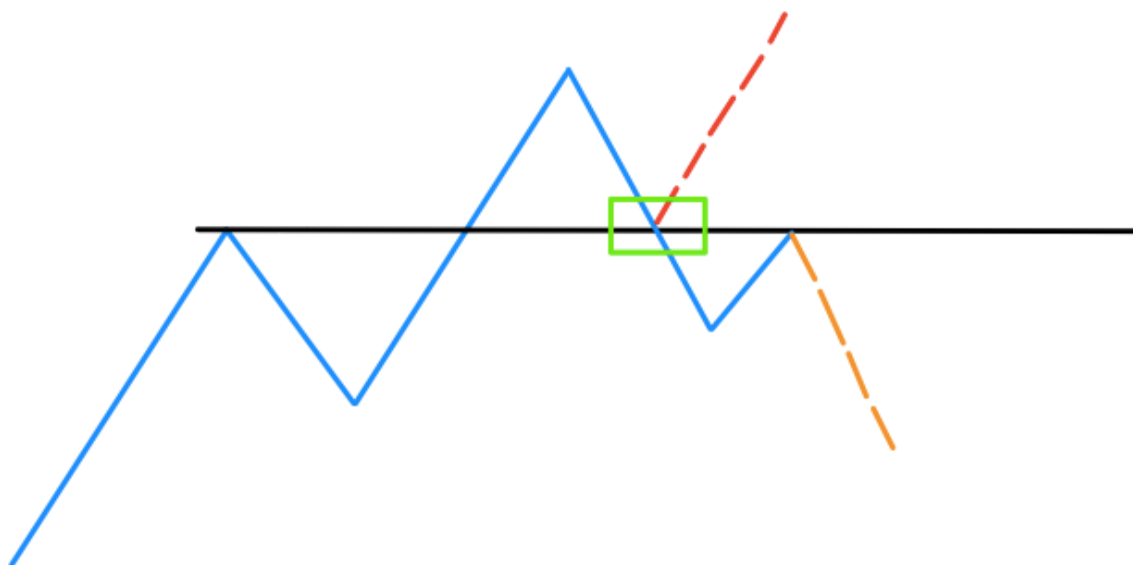
ですが、まだこの時点では「意識されるライン」になりません^^;
ただ、ラインが機能せず抜けてきただけの状態です。

いや、正確に言うと意識はされるラインなんだけど
まだこの状態ではトレードに使えないと言った方が正しいですかね。

どういうことか？というと、、、

次は↓の図を見てください

黒ラインを下抜けてきたら、次はオレンジ点線のような下げていく動きを狙えるか！？
と思いきや、この動きは狙えない。
なぜなら、先ほどの図にも書いてある通り現在は上げの流れが出ている（買いゾーン）
という前提で話しているから。
仮に、下げの流れが出ている（売りゾーン）という場合は問題なく狙っていける。



「意識はされるけど、トレードに使えないライン」とはこういうことです。

先ほどの最初の図にも書いてある通りで、
上げの流れが出ている（買いゾーン）から、ここからオレンジ点線のような
下げていく動きは狙えないというわけですね。

基本ですね^^;

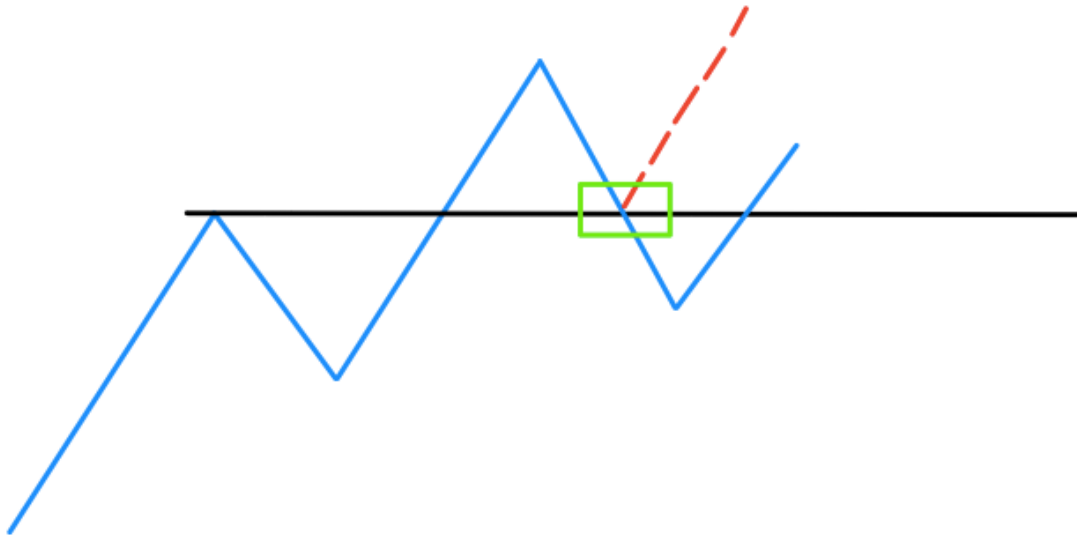
ちなみに、これが下目線（売りゾーン）だった場合は問題なく狙っていただけます。

では、いよいよ

どうなれば、「一度抜けたラインが、意識されてなおかつトレードに使えるライン」
になるのか？

という肝心の部分を説明していくので
次は↓の図を見てください

黒ラインをレジスタンスにして下げていくのではなく、「**黒ラインを上抜けてくる**」という事実が重要。
黒ラインを上抜けてきて、初めてこの「一度抜けたライン」が意識されやすくなり
さらにそれがトレードに使えるラインとなる。



「一度抜けたライン」はこういう青線のような動きになって
初めて意識されやすいラインになります。

じゃあ、なぜこの「一度抜けたライン」が意識されやすくなるのか？
というのを説明すると

単純に「**黒ラインをレジスタンスにして下げていけなかった**」
という紛れもない事実があるからなんですよ。

ラインってそもそも
サポートされなかったらレジスタンスになり
レジスタンスされなかったらサポートになるというのがセオリーなんです。

なので、その**ライン本来の性質（セオリー）**を考えると
黒ラインでレジスタンスされて下げていかず、逆に上抜けてきたんだから

「**レジスタンスされない⇒だから、次は同じラインをサポートに使って上を狙っていく**」
という思考や行動が正しいんです。

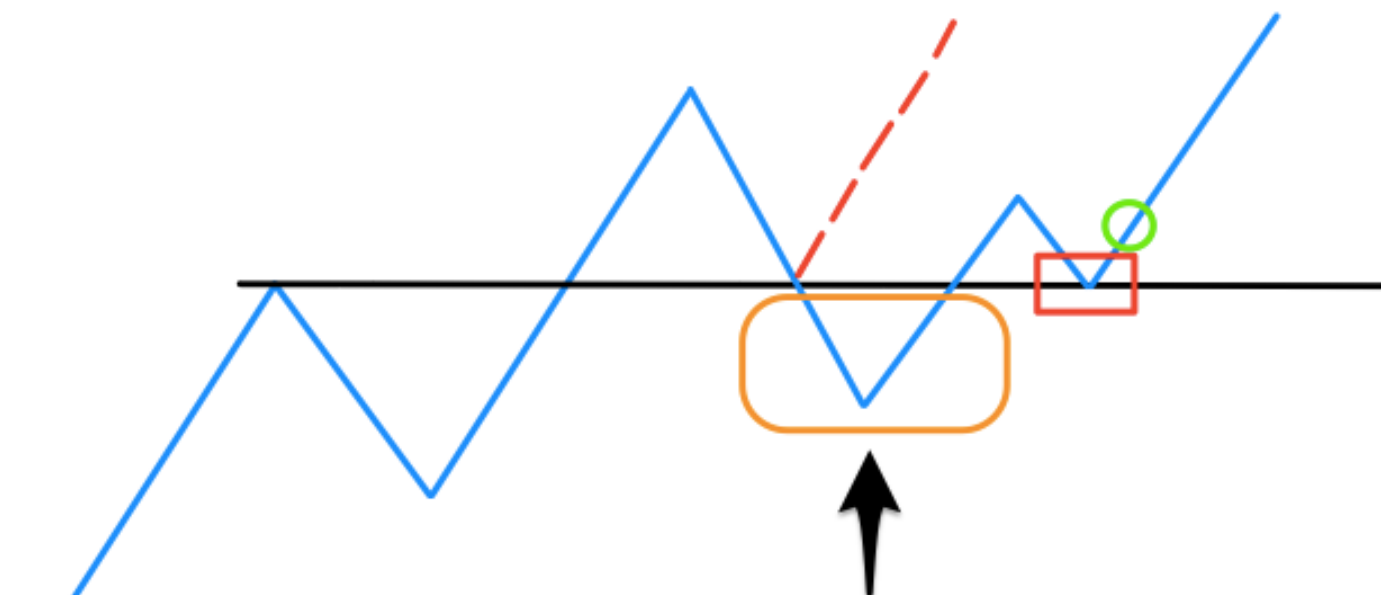
相場に起こった事実（例えば、ラインに止められてそれ以上は上に行けないなど）
というのは、いわば世界中のトレーダーが作り出した「多数決の結果」なんですよ。

なので、その結果に従うのは絶対に「正しい視点」だし
やっぱりその正しい視点は世界中のトレーダーが意識してるんです。

上の図の黒ラインもそういった事実ありきで考え、判断していったるので
当然、どうしても意識されてしまうラインになるということです^^;

で、話を戻しますが
再度黒ライン（一度抜けたライン）を上抜けてきたら
↓の図のような感じでそのラインをサポートに利用して上げていくところを狙っていくんです。

後は、赤枠のところでしっかりとサポートを確認できれば
緑丸で入っていけるポイントとなる。



このオレンジ枠のところで、一度ラインを下抜けて
その後、再度ラインを上抜けている。

ここら辺の入り方はブログやメール講座でも言っている通りですね^^

「一度抜けたライン」を再利用する際に大事なポイント主に2つです。

- ・ラインを一度抜けたという事実
- ・そしてそのラインを再度、上抜けてきたという事実（上げの場合）

絶対にこの「2つの事実」がないと

「意識されてなおかつトレードに使えるライン」にはならないので
ここの確認は忘れずにしてくださいね。

では、これらを踏まえて次は実際のチャートを見ていきましょう。

↓のチャートを見てください



図でも説明した通り

ここで、まず立てるべきシナリオは「この白ラインでサポートされて上げていくかどうか？」
ですね。

ここら辺は、もう何度も説明しなくても分かりますよね^^;

ブログでも何回か話してるんですが

まずは、セオリー通りの動きを狙う

そしてそれが崩れて、初めてセオリーとは違う動きの可能性を考えることができる。

なので、この時点での正しい狙い方は

「白ラインでサポートされてからの上げ」を狙うこと。

になります。

で、その後相場はこんな感じで動きました↓



白ラインを下抜けてきました。

赤丸で白ラインにレジスタンスされて少し下げてますが

青線のように、まだまだ本格的な下げになっていないので

このまま白ラインを再び上抜けてくるのを「待つ」というところになります。

ちなみに、ここでいう「本格的な下げ」というのは

もっと大きな下げのことを言うので、これくらいの下げであれば

「ただ白ラインを下抜けてきただけ」と認識してOKです^^

で、その後の相場です↓



いい感じに上抜けてきましたね^^

先ほども言ったんですが、「一度抜けたライン」は
この時点で、初めて「**トレードに使えて、かつ意識されるライン**」になります。

なので、後はこの「一度抜けた白ライン」をサポートに利用して
そこから上げていくところを狙うだけです。

- ・ **ラインを一度抜けたという事実**
- ・ **そしてそのラインを再度、上抜けてきたという事実**

という「2つの事実」もこの時点でクリアしてます。

そして、その後の相場はというとこんな感じ↓



その後、しっかりと白ライン（一度抜けたライン）でサポートされて綺麗に上げていきましたね。

エントリーポイントは当然、「白ラインでサポートされたところ」になるので白矢印付近でエントリーすることになりますよね。

この「一度抜けたライン」も他のラインの引き方同様かなり意識されるラインになるので、絶対に覚えておいてくださいね^^

ちなみに、「一度抜けたライン」自体はどこに引けばいいのか？
という疑問もある出てくるかな？と思うので、これも説明すると

基本的にはどこに引いてもOKです。

ですが、「どこでも」と言うのは意識されやすいところはどこでもという意味で単に、意識されるされない関係なくどこにラインを引いてもOKというわけではないのでそこは間違えないでくださいね 笑

意識されるラインというのは
この書で、ここまで話してきたので分かるはずですよ^^
（例えば、三尊ラインやネックラインなど）

ちなみに、今回は「上げの流れの場合」を例に出して説明しましたがこれも、下げの場合は上下が逆になるだけで考え方は全く同じです。

一応軽く説明するので↓のチャートを見てください。



- 1、まず、白ラインでレジスタンスされて下がっていかず
白ラインを上抜ける（青線のような動きにならない）
- 2、かと言って、白ラインがサポートになって上げていくという動きもせず
再度、白ラインを下に抜けてくる（赤線のような動きにならない）
- 3、そうすると、白ラインが俄然意識されやすくなるので
白ラインをレジスタンスにして、黄丸付近でエントリー。

という感じです^^

このラインも他のラインの引き方同様
かなり意識されるので、しっかり使えるようになってくださいね。

この他にもまだまだ「ラインの引き方の型」となる相場の流れや形はありますが
とりあえず今の所はここまでにして、またこれからも順次追加していきます^^

最終的にはこれを読んだ皆さんが、ラインの引き方を完全にマスターできる
いわば、「**ラインの指南書**」のような存在にできればと思ってます^^

なので、これはご自由にダウンロードしていただいてOKなので
ぜひ、繰り返し読んでラインの引き方を完全にマスターしてくださいね。

(ただし、無断転売や販売は固く禁じます)

また、追加した際はブログやメール講座の方で
お知らせするので、是非チェックしておいてくださいね。

(2017年12月8日 公開)

(2017年12月19日 更新)

福沢